

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 6 日現在

機関番号：34316

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2016

課題番号：25590043

研究課題名(和文)近代中国の「外国人税務司人事制度」に見る国際関係

研究課題名(英文)International relation of modern China viewed from foreign inspectorate system of the Chinese maritime customs

研究代表者

濱下 武志(Hamashita, Takeshi)

龍谷大学・仏教文化研究所・研究員

研究者番号：90126368

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、これまで経済史において外圧という視座から検討されてきた海関関係資料の中で未検討であった人事資料を、新たに清朝と外国を統合する国際経済関係という視角から、経済社会、財政金融政策に亘って検討した。

より具体的には、(1)膨大で多様な海関人事関連資料を可能な限り系統的に収集、整理分類し、データベース化し、複合的な検索を可能とする項目を策定して基礎データを構築した。これに基づいて、海関人事の国際的特徴と長期の変動を統計的に明らかにした。(2)借款など金融財政政策における国際的關係に登場する海関関連人材相互の關係を検討し、国際共同経営組織たる中国海関の歴史的特徴を明らかにした。

研究成果の概要(英文)： This research project on "International relation of modern China viewed from foreign inspectorate system of the Chinese maritime customs" clarified the importance of the foreign inspectorate system of the Chinese maritime customs to discuss the international relations of modern China.

Detailed aspects of this analysis was classified into two parts. One was to make database by collecting basic personnel records of foreign inspectorate of customs and classified them under functional categories. The other was to clarify the importance of personnel in inspectorate system of customs for negotiation of international and regional affairs of East Asia.

研究分野：近代中国並びに東アジア経済史

キーワード：近代中国海関 近代中国の国際関係 外国人税務司制度 海関の国際人事制度 国際共同経営組織

1. 研究開始当初の背景

1864年に始まる近代中国海関（開港場に設置された近代的税関、洋関ともいう）は、「外国人税務司」を頂点として管理運営され、外国人の人事は、イギリス人総税務司ロバート・ハートが海関のロンドン事務所代表のロバート・ダンカン・キャンベルと相談して決定し、清朝政府が任命し俸給を支払うという独特の人事制度であった。

そこで刊行された海関報告は、従来は貿易統計を中心に検討されてきた。1860年代から1949年まで約80余年の期間に、中国各地に設置された40余箇所の海関管理のトップに立った外国人税務司は、総計900名近くを数え、出身国は14カ国に上った。国別では、イギリス人が約550名と圧倒的であり、アメリカ人約150名、ドイツ、フランス人各約80余名、ハンガリー・ノルウェー約10数名、そして1名の日本人も含まれる。加えて海関には多数の中国人も従事しており、海関人事問題は、いわば国際関係と国内政治の双方の縮図ともいえる様相を呈していた。

しかし、海関の人事制度と運営に関する研究は、上記のハートやH.B.モース（アメリカ）など一握りの代表的な人物の事績に着目するにとどまり（李愛麗『晚清美籍税務司研究 以粵海関を中心』（天津古籍出版社、2006年）、文松『近代中国海関洋員概略 以五任総税務司為主』（中国海関出版社、2006年）、膨大な人事情報は未検討のまま今日に残されている。

2. 研究の目的

本研究は、これまでまったく経済史において外圧という視座から検討されてきた近代中国海関関係資料の中で未検討であった人事資料を、新たに清朝と外国を統合する国際関係という視角から、経済社会、財政金融政策に踏み込んで検討を試みる。より具体的には、(1)膨大で多様な海関人事関連資料を細大漏らさず収集、整理分類、データベース化し、複合的な検索を可能とする項目を策定して基礎データを構築し、(2)海関人事の国際的特徴と長期の人事政策の変動を統計的に明らかにする。さらに、(3)金融財政政策などにおける国際的な人材の共同と競合の両面を明らかにし、「国際共同経営組織」としての特徴も検討する。そこから現代東アジアの共同課題に取り組む際に、海関人事に示された国際関係が、地域枠組みの歴史的参考事例たることを検証する。

3. 研究の方法

研究代表者は、中国経済史研究の観点から海関資料の重要性に早くから注目し、『中国近代経済史研究 清末海関財政と開港場市場圏』（汲古書院、1989年）などにおいて、

貿易統計を中心とした海関資料研究をおこなってきたが、その過程において、海関組織の人事運営が端的に中国をめぐる国際関係を反映しており、かつそれが李鴻章など清朝洋務派官僚の主導で進められたことを示す史料にも遭遇した。また海関管理は、貿易のみならず、郵便・電信・医療・万国博覧会参加などにも及ぶ広範な事業であり、膨大かつ多様で分散的な人事情報を系統的に掘り起こし分析することにより、経済・社会政策の立案遂行においても国際的協働がおこなわれていたという具体的様相を、海関人事制度の検討を通して同時代の国際関係を見る、という新たな視点から明らかにできることが確認された。以下に、資料の具体的な種類とそれらに対する収集・データベース化作業についてまとめる。

A. 海関人事記録の種類

海関人事記録は以下の種類に分けられる。

1) 職掌毎の人名記録があり、これは Staff List あるいは Service List として刊行された上級海関員の記録である。

2) 外国人海関職員と中国人海関職員に分けられた人事記録は、アルファベット順に、氏名（欧文）・中国名・地位・任地海関・職掌・品銜（ひんかん）が記載される。これらの人事情報は、Chinese and Foreign Honours, Decorations, Literary Degrees, etc., held by members of the customs service として不定期に刊行される。

3) 職掌と任地海関に関する統計数字は、Distribution of Staff（職員配置統計）と呼ばれる資料として刊行され、貿易報告の一部として添付される。

4) 海関業務に従事するすべての海関員で、中国元建てで俸給を受けている海員数の統計は、昇級期に刊行される。

5) 外国人上級海関員については、個人の履歴が作成されている。ただし、人事移動に伴い新たな任地先で保管されるため、特定の個人についての最終的な任地を確定し、履歴書の保管地を特定することが必要となる。この資料は、保管部署が一定せず档案馆で偶然に確認される場合が多い。

B. 資料収集とデータベース化

1) 外国人海関員の全国的な配置の概要を把握すべく各地海関別の人事考課資料ならびに人事異動に関する資料を中心に収集整理する。年代的には、1865年～1910年を集中的に収集検討した。

2) 海関別の1911-1945年に互る人事考課資料ならびに人事異動に関する資料収集を行った。特に上海、広州、南京の各資料館における半公式資料ならびに統計資料の収集を進め、人事異動を中心にデータベース化のための入力を進めた。また、移動の傾向ならびに人員配置に関する出身国別分布の詳細を統計的にまとめた。

3)重点を中国人海関員に関する資料収集に置き、その実態を分析し、さらに、海関を通して運営された郵政と財政金融問題に着目して、海関活動の範囲の広がりとそれに対応した国際的な人員配置の動態について検討した。とりわけ、アメリカのアジアへの影響力の拡大が、朝鮮海関や上海統計局などの人事に如何に反映されているかという点を検討した。

これらの資料収集は上海・南京・広州の資料館を中心に行い、また龍谷大学図書館をはじめとする諸研究機関に所蔵される中国海関資料のマイクロフィルム資料等も最大限収集し、日本所在資料に関する理解を深めた。日本人の中国海関税務司及び上級海関員、その他の海関従業員に関する人事資料についても特に留意して資料収集をおこなった。

なお膨大で系統的ではない資料群を扱うため、適宜、時代を1912年の中華民国の成立までの期間に区切るなど、資料収集の過程で、比較的まとまった時系列資料が得られる可能性がある特定の地域や比較的上層の人事に焦点を絞った事例研究を組み込む等、史料と枠組みとの相互対応的なフィードバックに心掛けた。

また、収集した資料が膨大に蓄積されるに伴い、そのすべてを系統的に整理し分類することが当面困難であることが判明したため、約150名のアメリカ籍の海関関員の背景履歴と任官地、その移動を集中的に検討分析することにより、中国海関が如何にして太平洋を跨いでアメリカのアジアへの参入を促す国際的な役割を果たしたか、という点を明らかにする方向を重点的に追究した。

4. 研究成果

海関人事資料の特徴は、膨大であるが系統性は必ずしもなく、適宜に記録として報告されている。また、人事情報も、清朝側から、また海関総税務司ロバート・ハートから、さらに地方の海関税務司から出されるなど交錯しており、分類のカテゴリーも一定していない。従って、今回の資料収集の目標は、海外の共同研究者とともに、海関人事資料を細大漏らさず収集し、整理分類することを基本目標とし、並行して人名(中国名を含む)・出自背景・職階・人事異動・褒章などの記録をデータベース化し、人事行政・人事管理に現れる国際関係を検討するための検索項目を設定し、基礎データベースを構築することに置いた。そこでは、“Service List”『新関題名録』として毎年1冊発行される海関税務司をはじめとするすべての海関人事記録を1880年代半ばから1910年代初めまでの人事記録を中心として入力・編集整理を行った。これにより、清末期における海関人事の動向を把握することが可能となった。

人事考課に焦点を当てて検討することにより、以下のような当面の結論を得た。

1. 一般に近代中国外交史研究においては、アヘン戦争を嚆矢として、西洋との武力衝突と条約による決着が主な検討対象であった。そこでは、西洋(および日本)と中国の関係は対立関係が基調であり、戦争の勝敗など既成事実となった外交政策の帰結を前提とし、そこから遡及して政策の根拠とそこに至る過程が、外交文書に基づいて詳細に明らかにされてきた。

これに対して本研究において検討する海関が管轄した経済の領域では、利害の対立はあるものの、徹底した衝突は双方に不利益を招く恐れもある。したがって清朝側も含めた多国間の協調や調停を通じた国際共同経営としての論理を追求することが必要とされており、本研究はいわゆる外交史研究とは異なる東アジア地域関係史検討の視座を提示することが出来たと考える。

2) 清朝中央財政を強化する目的をもって開始されたこの海関制度は、当然、朝鮮など周辺の朝貢国に対しても影響を及ぼすこととなった。そこで生じた問題は、清国の開港場に立ち寄り輸入税を支払った外国船が、朝鮮など朝貢国に至るとき、どのような関税を支払うべきか、という問題である。すなわち、あらたに輸入正税の5%税を支払うのか、あるいは国内の移入税である子口半税の2.5%を支払うのみでよいのか、という議論である。この朝鮮税関での徴収をめくり、外国人総税務司を交えて議論がなされている。

従って本研究によって、朝貢国を藩属国とみなすか独立国とみなすかという近代中国の国際関係における基本的な問題に対して、東アジア域内の税関・条約・開港場という場における海関問題という視角から新たな光をあてることが可能となった。

これらにより、イギリスを中心とした自由貿易体制や海底電信網、国際決済通貨としてのポンド貨などの“国際公共資源”と、東アジアにおける歴史的な朝貢貿易体制などの“国際公共資源”とが、清朝末期の中国・朝鮮・日本を含む東アジアにおける関税制度の設立に引き継がれつつ、新たに太平洋を跨ぐアメリカの活動が促されると同時に、中国海関を基盤として新たな国際共同経営による運用が図られるに至った、という歴史的転換が明らかにされる。

最後に今後の課題を簡単に付け加えることとしたい。これらの海関人事資料の調査収集を進める中で、元海関関員の家族などから、父親の手紙や日記などの資料が示され、それらが編集出版されるという海関員個人資料をめぐる新たな領域の開拓というごきも確認できた。そこには、海関員の背景は極めて多様であり、かつ航海などにより広く海洋経験を積んだ者たちが参加していることが確認され、国際関係という枠にはとどまらないよりグローバルな行動様式が確認される。また海関洋員の中には、中国の古典・小説など、中国の文化社会に対する関心が高く、古

典収集や翻訳をおこない、欧米の中国研究の出発点を作ったものも少なくない。そこでは公式にまた制度及び組織の下で刊行された海関人事記録とは全く異なるグローバルな移動や家族の移民の動きが確認される。また、すべてイギリス籍やアメリカ籍など国籍別にまとめられた海関員も、例えば、イギリス籍を取ってみると、その内訳としては、ロバート・ハート自身も含め、相当部分をアイルランド出身者が占めるなど、従来の国際関係には表れてこないより地方的な要素の結びつきとそのグローバルな展開が見出される。

このように海関人事問題は、公刊された人事記録と同時にその背後に存在する膨大な個人記録への取り組みが今後不可欠であり、また一層重要性を増していくことになると考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

濱下武志「海関洋員回顧録和第二代海関史研究」上海中国航海博物館『国家航海』第 16 輯、2016 年 8 月、200 - 210 頁。

Takeshi Hamashita, Statistics of Tributary Trade of Ryukyu (Loochoo) at Fuzhou in 1851, 『承前啓後 王業鍵院士記念論文集』(台北市、満巻楼) pp.267-290.

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

中央研究院近史所とう案館<人名権威検系統>

<http://archdtsu.mh.sinica.edu.tw/imhkmc/imhkm>

6. 研究組織

(1)研究代表者

濱下 武志 (HAMASHITA Takeshi)

龍谷大学・仏教文化研究所・客員研究員

研究者番号：90126368

(2)研究分担者 無し

研究者番号：

(3)連携研究者 無し

研究者番号：

(4)研究協力者

呉松弟 (Wu Songdi)

復旦大学・歴史地理研究所・教授